

ヒダ-ザ 【皮下注/血液】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ヒダ-ザ注射用	治療のお薬です。皮下に注射します。 皮下投与が困難な場合(血小板が低いときなど)には、静脈投与を行うことがあります。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ゼアOD錠	吐き気を抑えるお薬です。注射の30分前に服用します。

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
ヒダ-ザ	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓																					

投与間隔：7日間連日皮下注射し、その後21日間休薬します。(1J-ス：28日)

AZA(ヒダザ) 療法【皮下注/血液】

よく起こる副作用

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日に減少します

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球(細菌などから体を守る)、血小板(出血を止める)、赤血球(酸素を運ぶ)の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制(障害)といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症:38℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血:疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血:紫斑(原因不明のあざ)、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなる場合がありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで

※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

★注射部位反応

症状 注射部位の紅斑、発疹、そう痒感、硬結など

対処法 ○上記の症状が出た時は医師に連絡し、指示に従ってください。
○ステロイド外用剤を使用することがあります。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★心毒性(心筋障害、心不全)

★心毒性（心筋障害、心不全）

発生時期 薬剤投与日から1～数月後以内
※まれにそれ以降にも起こる場合があります。

症状 手や足首のむくみ、息切れ、動悸、胸の痛みなどの症状があらわれることがあります。

対処法 ○上記の症状が出た時はすぐに医師に連絡し、指示に従ってください。

★低血圧

発生時期 投与期間中はいずれの期間も発現する可能性があります。

症状 低血圧症状（めまい、ふらつき）が起こる場合があります。

対処法 ○急に立ち上がるなど急激に体位を変えることはさけてください。
○降圧剤の服用中の方は主治医へ申し出てください。用量を調節する場合があります。
○水分補給を行って脱水症状を予防しましょう。

その他の副作用

★その他

症状 □内炎、全身倦怠感、発熱、頭痛、便秘、味覚異常など

対処法 ○症状に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するとき一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

